

2. 品質検査基準

【平成30年4月1日改定】

別表第4 品質検査基準

【平成30年4月1日改定】

工種		検査内容	検査方法	
共通	材料	(1) 品質及び形状は、設計図書と対比して適切か。	(1) 観察または品質証明により検査する。 (2) 場合により実測する。	
	基礎工	(1) 支持力は、設計図書と対比して適切か。 (2) 基礎の位置、上部との接合等は適切か。	(1) 主に施工管理記録及び観察により検査する。 (2) 場合により実測する。	
	土工	(1) 土質、岩質は、設計図書と一致しているか。 (2) 支持力または密度は、設計図書と対比して適切か。		
	無筋、鉄筋コンクリート	コンクリートの強度、スランプ、塩化物総量、アルカリ骨材反応対策、水セメント比等は、設計図書と対比して適切か。		
	構造物の機能	構造物または付属設備等の性能は、設計図書と対比して適切か。		
道路	舗装	路盤工	(1) 路盤材料の合成粒度は、設計図書と対比して適切か。 (2) 支持力または締固密度は、設計図書と対比して適切か。	(1) 主に施工管理記録及び観察により検査する。 (2) 場合により実測する。
		アスファルト舗装工	アスファルト使用量、骨材粒度、密度及び舗設温度は設計図書と対比して適切か。	(1) 主にすでに採取されたコアー及び現地の観察並びに施工管理資料により検査する。 (2) 場合により実測する。

※備考

- (1) コンクリートの品質及び強度については、別紙「**コンクリート強度及び保水検査基準**」によるものとする。
- (2) 受注者は、品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。
- (3) 品質の規格値は、発注者が定めている施工管理基準の規格値によるものとする。

※国土交通省の土木工事検査技術基準を基に作成、(1)(2)(3)は工事検査課で追記

(別紙)

コンクリート強度及び保水検査基準

【平成30年4月1日改定】

工種	検査項目	検査方法	検査頻度
・共通の事項	強度	コンクリート構造物については、シュミットハンマーによりその強度を測定する。 1ヶ所当たりの測定は3～5cm間隔で9点以上測定し、この平均値を測定値とする。	
	保水検査	コンクリートの水密性については構造物部材高(厚)の70%程度穿孔又は穿孔残5～10cm程度とし、これが不可能な場合は1.5m以上穿孔してコンクリートの保水程度、漏水の有無等を検査する。 ただし、高さ1.0m以下の場合は、省略することができる。	
・石積(張)工、コンクリートブロック積(張)工等	抜き取り検査	控長、形状寸法及び胴込・裏込コンクリートの品質、厚さ、充填程度の状況を検査する。	必要と認める場合は検査する。
	保水検査	天端又は法面より深さ1.5m以上(2.0m以下の構造物の場合は70%程度)穿孔してコンクリートの保水程度、漏水の有無等について検査する。	必要と認める場合は検査する。
・コンクリート擁壁工(現場打) ・護岸工 ・突堤上部工(場所打コンクリート工) ・防波堤工(上部コンクリート) ・岸壁工等	強度	共通の事項に準ずる。	施工延長100m以下の場合は1ヶ所以上、施工延長100mを超える場合は100m毎に1ヶ所以上検査する。
	保水検査	共通の事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・ケーソン工	強度	共通の事項に準ずる。	1. 全個数について検査する。 2. 各側面及び天端を検査する。
・セルラー工 ・L型ブロック工 ・方塊ブロック工(ブロック積式の方塊ブロックに限る)	強度	共通の事項に準ずる。	2個に1個の割合で検査する。
	保水検査	共通の事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。

工種	検査項目	検査方法	検査頻度
・砂防コンクリート堰堤 本體工 側壁工 水叩工 垂直壁工	強度	共通的事項に準ずる。 水叩工は試験成績表等で確認する。ただし、必要と認められた場合は、コア等により試験を実施させる。	保水検査に準ずる。 コアを採取する場合は、3個以上とする。
	保水検査	堰堤の天端を深さ2.0m程度穿孔して保水検査を行いコンクリートの水密性及び漏水の有無等について確認する。	水通し天端1ヶ所以上、袖天端は片側1ヶ所以上穿孔して検査する。
・床固工 ・帯工等	強度	共通的事項に準ずる。	左右岸の各部をそれぞれ1ヶ所以上検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・堰 ・頭首工	強度	共通的事項に準ずる。	各部及び左右岸の各部をそれぞれ2ヶ所以上検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・コンクリートダム工 本體 水叩 副ダム 導流壁 監査廊 洪水吐	強度	施工管理記録等による。 共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・樋門、樋管工 ・現場打カルバート工 ・サイフォン(現場打)	強度	共通的事項に準ずる。	1. 樋門については本體部、呑口部、吐口部につきそれぞれ2ヶ所以上検査する。 2. 函渠、開渠については同種構造物毎に2ヶ所以上検査する。
・コンクリートブロック工(異形ブロック・魚礁) ・方塊ブロック(ブロック積式の方塊ブロックを除く)	強度	共通的事項に準ずる。	50個に1個の割合で検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・橋梁下部工	強度	共通的事項に準ずる。	1基当たり2ヶ所以上検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・橋梁上部工	強度	共通的事項に準ずる。	1区間当たり2ヶ所以上検査する。
・橋梁桁製作工	強度	施工管理記録等による。	
・トンネル工	強度	共通的事項に準ずる。	1. 施工延長100m以下の場合には1ヶ所以上、施工延長100mを超える場合は100m毎に1ヶ所以上検査する。 2. 坑門工2ヶ所以上検査する。

工 種	検査項目	検査方法	検査頻度
・現場打水路工	強 度	共通的事項に準ずる。	施工延長100m以下の場合は1ヶ所以上、施工延長100mを超える場合は100m毎に1ヶ所以上検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・その他の構造物	強 度	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
	保水検査	共通的事項に準ずる。	必要と認める場合は検査する。
・現場打吹付法砕工	強 度	<ul style="list-style-type: none"> ・設計基準強度:「土木工事標準(18N/mm²) 積算基準書」による ・配合試験:「のり砕工の設計・施工指針」による ・品質管理:「県土整備部共通仕様書」による 《検査者は強度に係る品質管理データ等により、現場における強度を確認する》 <ul style="list-style-type: none"> ・「現場吹付法砕工に伴う強度等の運用」の改訂について(H8.1.29) →廃止する(H21.6.1以降) 	必要と認める場合は検査する。